

第 1 回館山市議会定例会会議録

(第 4 号)

1 平成6年3月14日(月曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 22名

1 番 秋山 光章	2 番 増田 基彦
3 番 島田 保	4 番 斉藤 実
5 番 宮沢 治海	6 番 植木 馨
7 番 鈴木 順子	8 番 永井 龍平
9 番 脇田 安保	11 番 山崎 雅己
12 番 岩村 勝弘	13 番 榎本 春光
14 番 小宮 利夫	15 番 山中金治郎
16 番 鈴木 勝美	17 番 鈴木 忠夫
18 番 日下 君敏	21 番 神田 守隆
22 番 福原 勤	26 番 辻田 実
27 番 横溝 功	28 番 飯田 義男

1 欠席議員 4名

10 番 庄司二三男	19 番 川名 正二
20 番 生稻 陞	23 番 石井 昌治

1 出席説明員

市 長 庄司 厚	助 役 小幡 清之
収 入 役 川上 義雄	市長公室長 永野 修
総 務 部 長 斉藤 賢司	民 生 部 長 渡辺 富雄
経 済 部 長 小沼 晃	建 設 部 長 三平 孝司
水 道 課 長 谷貝 実	教 育 委 員 会 長 高橋 博夫
選挙管理委員会 委 員 長 加藤 利	選挙管理委員会 事務局書記長 平嶋 倫治

1 出席事務局職員

事 務 局 長 兵藤 恭一	事 務 局 長 補 佐 鈴木 哲
書 記 四ノ宮 朗	書 記 安田 仁一

1 議事日程（第4号）

平成6年3月14日午前10時開議

日程第1	議案第2号	平成6年度館山市一般会計予算
	議案第3号	平成6年度館山市国民健康保険特別会計予算
	議案第4号	平成6年度館山市老人保健特別会計予算
	議案第5号	平成6年度館山市ユースホステル特別会計予算
	議案第6号	平成6年度館山市学童災害共済事業特別会計予算
	議案第7号	平成6年度館山市下水道事業特別会計予算
	議案第8号	平成6年度館山市水道事業特別会計予算
	議案第9号	平成6年度館山市国民宿舎事業特別会計予算

開 議 午前10時00分

◎議長（福原 勤君） 本日の出席議員数21名、これより第1回市議会定例会第4日目の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

議案の上程

◎議長（福原 勤君） 日程第1、議案第2号乃至議案第9号、平成6年度一般会計及び各特別会計予算を一括して議題といたします。

質 疑 応 答

◎議長（福原 勤君） これより質疑を行います。

通告がありますので、発言を許します。

なお、発言の際はページ数をお示しくくださるようお願いいたします。

6番議員植木 馨君。御登壇願います。

（6番議員植木 馨君登壇）

◎6番（植木 馨君） 新年度予算案について、既に通告いたしました、関連質問を含め、2点についてお尋ねをいたします。

まず第1点は、予算書の体育施設費、161ページ、15節、東市民運動場体育館改修請負費1,700万、設計委託料を含め1,810万円計上されておりますが、先般全員協議会において、東市民運動場を医師会病院建設予定地として借用したい申し入れについての説明がありました。さらに、今回正式に借用についての要望書の提出があり、これに対し、市長は受け入れる姿勢をはっきりと示された、その決断に対しまして心から賞賛をするものであります。

この受け入れについて、将来病院建設設計上や増棟計画の中で体育館の取り壊しがあり得るかどうか、十分チェックする必要が考えられます。今回の受け入れ要望は当初予算策定後に出された問題だけに、貸し付けに対し、体育館と医師会病院、相互間に支障が生じないかどうかについて十分検討した上で予算措置を考えていくべきであると思います。この点を解決しないまま予算化することは非常に危険であるように思います。将来万一取り壊しをするような事態となった場合、市民の大切な税金のむだ遣いになるような無策な行動は避けなくてはならないと思います。ついては、十分な配慮が必要であると思います。今後どのような対応を考えておられるのか、御説明をいただきたいと思います。

次に第2点目は、関連質問になりますが、市民が利用してきた東運動場及びコミュニティ広場も、文化ホールや医師会病院の建設で近々のうちに使用できなくなります。寂しい限りですが、これも市民が永年願ってきた施設の建設でありますので、大いに優先させなくてはならないと思っております。しかしながら、早急にこれにかわる運動場、競技場の建設整備が考えられますが、これについてどう受けとめ、考えておられるのか。特に、サッカー人気は全国的に熱狂的な盛り上がりをしている今日です。本市のサッカー愛好者チームも年々ふえ、運動場施設の利用も増加していると聞いております。この需要に対応できる施設の整備が当然考えられるわけですが、館山市サッカー協会の会長の立場にある市長さんの御所見をお伺いいたします。

以上をもちまして質問を終わりますが、御答弁により再質問をさせていただきます。

◎議長（福原 勤君） 教育長。

(教育長高橋博夫君登壇)

◎教育長(高橋博夫君) 体育施設費の第1点目、東市民運動場体育館改修工事についての御質問でございますが、東市民運動場体育館は昭和40年5月に建設以来28年余りが経過しており、外壁のモルタル部分の落下、雨どいの腐食及び窓等建具の損傷が見受けられ、危険な状態にあります。このため、当分の間社会体育施設として利用するため、危険箇所の最低限の改修工事を実施しようとするものでございます。

次に第2点目、運動場新設計画につきましては、スポーツ振興審議会におきましても幅広い御意見が出ておりますので、これらを参考に今後検討してまいりたいと考えております。

以上でございます。

◎議長(福原 勤君) 植木 馨君。

◎6番(植木 馨君) ただいまの御答弁で大筋わかりましたが、4点ほどお尋ねをいたしたいと思います。

第1点は、取り壊しは絶対にしないという条件で運動場を貸し付けるのか。

第2点目は、体育館使用者は当然車を使用する的多いと思います。駐車場を含め、区割りをした貸し付け方法を考えておられるのか。

第3点目は、壊さない条件で改修後、ただいま社会体育施設として使用を進めていくということですが、健康な体育館使用者と患者という不自然さの中で当然共存しなければならないわけですが、施設を利用してきた市民の声を聞く必要があると思います。これについてどのようにお考えになっておられるのか。

第4点目は、スポーツ審議会の中で市民の健康及び体力づくりの場としての施設の整備ということ幅広くお考えになっているようでございますが、具体的に現在出ているような点がありましたら伺いをいたしたいと思います。

◎議長(福原 勤君) 教育長。

◎教育長(高橋博夫君) ただいまの植木議員さんの取り壊しの件と体育館の存続問題の件でございますけれども、現在私どもといたしましては、要望

書を受け入れたということで了解はしておりますけれども、今後の過程につきましてはまだわかりませんので、この点につきましては、現状といたしましては、あくまでも体育施設という形でもってそのまま利用させていただく。そしてまた、利用団体にも多く使っていただきたい。

この件につきまして、さらに駐車場の問題等につきましても、これは今後にかかわる問題でございますので、さらに具体的な話が参りましたときにおきまして検討を深めていきたい、こう考えます。

次に、審議会の模様でございますけれども、確かに館山市におきますところの運動施設につきましては十分話をされておまして、社会体育施設についても今後検討せねばならぬということは現在話題として話され、さらにそれを煮詰めて建議をいただくというようなところまで現在はおきております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 植木 馨君。

◎6番（植木 馨君） 御答弁ありがとうございますけれども、実は私も今回のこの体育館改修に対しては反対しているわけじゃございませんので、先ほど御質問申し上げましたとおり、税金のむだ遣いにならないようなひとつ配慮を考えていただきたいというのが、これが基本的な予算措置のやり方だと思います。そんなことで、この体育館改修に当たっては、すべて支障のないような一応方法を立てての御要望をしておきたいと思います。

さらに、この体育施設でございますけれども、これはお隣のことを言って申しわけないわけですが、隣の鴨川市は体育施設については積極的に取り組んでいるような姿勢がうかがえるわけでございます。御存じのとおり、本年度も5億数千万円計上しまして第2種公認競技場の建設に取り組んでいるわけでございます。これも市民の健康及び体力づくりだけではなく、観光鴨川に続いて、さらにスポーツを通じてまちおこしの決め手にしていこうという、そういった積極的な姿勢、雰囲気を感じられるわけでございます。

過日、日本ハムが参っておるわけでございますけれども、紅白試合がありましたので、施設の利用状況とか野球ファン、マニアの入り込み状況とか、そういったものを確認かたがた行ってきたわけでございますけれども、どこ

から来たのかわかりませんが、大勢のギャルが詰めかけて、その熱狂ぶりに圧倒されたわけでございます。館山にはない活気を肌で感じてきたわけでございますけれども、車の中でこの点ちょっと——本市は一步も二歩もおくれているなという感じを受けながら帰ってきたわけでございます。

そこで、市の執行部に私から求めるものは、現在リゾート開発として、また観光開発にしても、本市の活性化につながるというこれといった決め手がないのが事実です。また、鴨川とは違った角度からスポーツを通じたまちおこしを考えられたらと思うわけでございます。その決め手は、先ほど私が言いましたように、全国的に熱狂的なサッカー以外にはないじゃないかというふうな考え方を今のところ持っているわけでございます。そして、サッカーのまち、サッカーの館山づくりというところへ目を向けていかれたらと思うわけでございます。そんな考え方を持っておりますが、市の執行部はいかがお考えになっておられるのか、お伺いをいたしたいわけでございます。

この件につきましては、私もいろいろとこの競技場、またその運動場候補地、そういったものを私なりに模索をしながらいろいろ検討してきたわけでございますけれども、これは私から今どこだということは申し上げられませんが、市有地であるすばらしい土地があるわけでございます。それはどこにあるかということをもとに考え、探り当てて、まちおこしのための施設、環境づくりを進めていただけたらということを御提案申し上げ、さらにこの件については次回しっかり触れていきたいと思いますので、今回は宿題として残しておきますので、6月までにひとつ結論を出していただくよう要望いたします、私の質問は終わります。

◎議長（福原 勤君） 以上で6番議員植木 馨君の質疑を終わります。

次、21番議員神田守隆君。御登壇願います。

（21番議員神田守隆君登壇）

◎21番（神田守隆君） 既に通告をいたしました諸点についてお尋ねをしております。私の質問は予算書及び予算事項別明細書に沿って行ってきたいと思います。

まず、25ページないし26ページをお開きいただきたいと思います。歳入の

固定資産税及び都市計画税の増税の問題についてお尋ねをいたします。まず、固定資産税でありますが、本年度は24億 6,367万 7,000円の歳入を見込んでおります。前年度に比べて1億 7,884万 6,000円の増収予算であります。率にいたしまして7.8%の増であります。なぜ固定資産税がこのように増収になるのでありましょくか。同様に、都市計画税も6.8%の増収になっているわけであります。

本年度は固定資産の評価がえが行われましたが、もともとこの評価がえは税の不均衡を正すためであり、増税のために行われるものではないということをして市はこれまでもたびたび強調してまいりました。しかし、実際にこのような増税になっているわけであります。そこでお尋ねいたしますが、今回の増税は評価がえを要因とするものなのか、そうでないのか、増税の要因について御説明をいただきたいと思ひます。

次に、都市計画税についてであります。都市計画税は都市計画事業のための目的税であり、都市計画決定のされていない市町村では課税できません。また、都市計画決定がされていて、市街化区域と市街化調整区域の線引きがされていれば、市街化調整区域には課税されません。館山市は、都市計画決定がされていますが、市街化区域と市街化調整区域の線引きがされていないいわゆる未線引き区域であります。そこで、県内30市の中でもこうした未線引きの市は館山市など県南部や東部にあるだけではないかと思うのでありますが、どこがその未線引きの市になっておるのか。そして、そうした未線引きの市では都市計画税を課税していない市も多いことと思ひます。そうした未線引きの市における都市計画税の課税はどのようになっているのか、御説明をいただきたいと思ひます。

次に、第2点、57ページをお開きください。交通安全対策費についてお尋ねをいたします。国道127号バイパスが開通し、道路交通の流れも従来とは変わってきたことと思ひます。高井の鶴戸川橋付近で県道富津―館山線と市道が交差しておりますが、127号線から館野、九重方面に抜ける道として自動車交通量がふえてきております。この交差点は県道が優先道路なのでありますが、市道の方が幅員が広がっていて、幅員の広い市道を走る方が一時

停止をしなければならないことになっています。このため、なれない運転手が一時停止を怠り、事故が発生しやすいのであります。この交差点の安全対策について市としても検討していることと思うのでありますが、信号機などの安全対策が必要ではないかと思うのです。いかがお考えなのか、お聞かせをいただきたいと思います。

次に、116ページであります。観光費の中の13節委託料、この中に観光地美化事業委託料が計上されております。説明書の14ページをお開きいただきたいと思います。この説明書によりますと、花き植栽事業委託料として、国道127号バイパスの植栽を行うということになっております。今年度の例を見ますと、実際に花が植えられているのは、国道バイパスの場合、那古の一部と北条の一部で、全体としてはかなりの植栽帯があるにもかかわらず、ほんの一部との感じがするわけであります。もっとこの植栽帯全体を花いっぱいにすることはできないのかどうか、その辺についてどのようにお考えなのか、お聞かせをいただきたいと思います。

次に、124ページであります。委託料の中に都市計画用途地域見直し調査委託料が計上されております。これについてお尋ねをいたします。都市計画用途地域の見直しは、都市計画法の改正に伴い行われるものでありますが、これまでも見直し調査の予算を計上してきたところであります。今回の調査委託料はどのような目的で行われるものなのでありましょくか。これまでの調査の進行ぐあいとあわせて、今回の調査委託の意味について御説明をいただきたいと思います。

次に、今回の都市計画法及び建築基準法の改正で重要な点は、そこに住む住民の意向を都市計画に反映していこうとする点であります。これはともすれば、これまでの行政主導で進められてきた都市計画行政を変えていこうとする点で重要な意義があることであります。例えば、容積率や建ぺい率の規制にいたしましても、用途地域の指定のない都市計画地域、いわゆる白地域では、容積率は最も厳しい100%から200%、300%と3段階の規制があり、その中からどれを適用するかを選択することになります。建ぺい率についても、同様に50%、60%の2通りからの選択であります。建物の日陰規制につ

いても、居住地域並みの規制が行われるようになりましたが、日陰になる北側の時間を選択することになります。

この規制の問題は、そこに住む住民自身にとって極めて重要な意味を持ちます。例えば、白地域の容積率について、最も強い規制の100%を選択するか、最も緩い300%を選択するかによって、その地域にリゾートマンションなどの大規模建築物の建設の可能性は大きく変わってまいります。一定規模以上の大規模建築物を建てるのに必要となる土地の面積が100%規制は300%規制の3倍にもなります。そこに住む住民の意向として、大規模建築物はこの地域にふさわしくないという意向が強ければ、最も厳しい規制を選択すべきですし、逆にその必要はないというのがその地域の住民の意向であれば、最も緩い規制ということになるかと思えます。いずれにしても、またその間にはさまざまな段階があるわけですのでございます。問題は、そうした規制の選択をどのようにしていくのかということでもあります。市としては、こうした住民の意向を最も重要視してこれを決めていく必要があると思うのですが、どのようにお考えでありますか。

次に、132ページであります。常備消防費5億8,406万4,000円、安房郡市広域市町村圏事務組合消防費負担金についてお尋ねをいたします。先日の行政一般質問で増田議員が救急救命士の配置の問題で質問をしておりました。この救急救命士の養成とその配置は一刻も早く進むよう大変期待するところであります。特に、高齢者人口の割合が高くなっている館山市や安房地域では、脳血管障害や心筋梗塞など、一刻を争う救急医療の分野は特別に重要性が増しているかと思えます。この救急救命士の果たす役割は大変重要だと思います。

しかし、脳血管障害や心筋梗塞などの場合、呼吸停止後5分以内の措置が救命率の上で決定的に重要だとされております。例えば、呼吸停止後2分以内に人工呼吸や心臓マッサージなどの救命措置をした場合は90%、3分後では75%、4分後は50%、5分後では25%にまで救命率が下がるということでもあります。救急患者が発生して、救急車で救急救命士が到着するまでに適切な応急措置がとられていれば、救命率は大幅に上がることになります。この

ため、東京消防庁では、都民の2割に当たる240万人を対象に応急措置等の救命心得の普及計画を立てました。企業や町内会単位などで3日間の講習を開いていくということでもあります。応急手当のできる人がたくさんいればいるほど、まちで急に倒れた人がいても、適切な応急措置で命拾いする率が高くなることになります。高齢者を抱えた家庭でも、家族のうちでだれかがそうした応急措置ができれば、どんなにか心強いことだと思うのであります。安房広域市町村圏事務組合でも、救急救命士の問題とあわせて、こうした救命心得の大量普及を計画すべきではないかと思うのでありますが、いかがお考えでありますか。

次に、同じく132ページであります。非常備消防費6,823万4,000円についてお尋ねをいたします。消防団員の方々には、日夜大変な御努力で市民の安全のために貢献していただいています。特に、昨年は火災が続発するなどしていたため、消防団員の方には本当に大変なことでありました。心から敬服し、感謝しているところであります。

そこで、現在の消防団の体制についてであります。団員の確保はどこも大変な状態で、なかなかやり手がいけないという問題で悩んでおります。団員になる候補の青年もなかなか地元で仕事をしているということが少なく、その結果、職場が遠方にあるという団員もふえております。いざ火災という場合でも、近くに団員がいれば、それなりに消防車で駆けつけ、消火に参加できますが、団員の多くが遠方に勤めていて、地元にはいないということになると、消火作業に参加することも大変なことであります。現在の消防団員の中で、職場が遠方にあるなど、地元で常時いない団員の状況がどうなっているのか等について市としても調査していることと思うのでありますが、この現状をどのように把握しているのか、お聞かせをいただきたいと思っております。

次に、火災はまず第1に予防であります。その次には初期消火であります。初期消火はそばにいる人がすぐに消すということでもあります。昼間實際家にいるのは主婦であったり高齢者であったりいたします。こうした方々が初期消火という面では現実にはその担い手になっているわけでもあります。そこで、地域における自主防災組織の日常的な初期消火訓練を活発化し、初期消

火体制を強化してはどうかと思うのであります。隣の千倉町では、町内会単位にこうした初期消火訓練などの自主防災活動が非常に活発であります。町としても、消火栓を計画的に配備し、そのそれぞれに消火ホース等を備えた器具箱を設置し、主婦や高齢者なども含めて、住民の多くがその消火栓を扱えるように日ごろから訓練をしております。このため、千倉町では初期消火で鎮火する例の割合が多くなっているということでもあります。こうした住民の自主防災組織の充実を図ることは初期消火に極めて有効な手段、方法だと思うのでありますが、いかがお考えでありましょうか。

次に、150ページであります。社会教育総務費中、第15節工事請負費2億1,498万9,000円についてであります。この中に沼サング層見学施設整備工事請負費があります。予算説明書によりますと、千葉県指定天然記念物、沼サング層の見学施設を建てかえるとして、建設工事費と説明板作成委託料で150万6,000円が計上されているところであります。現在の施設は、沼サングの露出しているところをコンクリートとブロックで囲み、鉄格子越しに中の沼サングを見ることができるようになっております。

この沼サング層の存在は、6,000年ないし8,000年前の縄文時代には、この館山は今よりもずっと暖かく、現在の沖縄のような気候風土であったことを証明しております。海もエメラルドグリーンの見事な海であったことと思います。沼サング層は縄文時代のサング礁であります。そして、そのサングは造礁性サングの世界的北限と言われる沖ノ島の現在のサング礁につながるものであります。ですから、この沼サング層の施設は、館山の自然や歴史への理解を進めるきっかけを与える大切なものだと思うのであります。現在の施設が老朽化したからつくり直すということにとどまらず、例えばその施設に行ったらサング化石を見て、その解説を読んで、子供たちでも館山の昔の海の様子が生き生きとイメージできるようにするとか、科学的な調査に裏づけられた資料をもとに、わかりやすく楽しい施設にしていきたいと思うのであります。大変少ない予算であります。どのような施設の構想をお立てになっているのか、御説明をいただきたいと思います。

また、沼サング層は、この施設周辺ばかりではなく、南房総全体がサング

礁であったから当然であります、海拔20メートルないし40メートルほどのところには至るところでたくさん見られます。こうした沼サング層の全体についての調査とその保護、保全についてはどのようにお考えになっておられるのか、あわせてお聞かせをいただきたいと思います。

次に、153ページをお開きいただきたいと思います。一番最後にあります図書館費 2,427万 7,000円についてお尋ねをいたします。昨年9月市議会で私は、夏休み期間中は図書館の利用が増大することから、その開館時間の延長を求めました。市長はこの提案に対し、その検討を約束したところであります。当然新年度当初予算の作成でこの件について検討されたものと思います。そこでお尋ねをいたしますが、この予算の中で今年度夏休み期間中の図書館の開館時間についてはどのようになさるお考えなのか、お聞かせをいただきたいと思います。

次に、197ページであります。議案は第3号、国民健康保険会計になります。まず第1点であります、今年度は終わっておりませんので、確定してはいないわけではありますが、今年度の決算について、おおよそどのような見込みになっているのか。その見込みも立っていることと思いますので、今年度、平成5年度の決算見込みについて御説明をいただきたいと思います。

次に、そうしたことを踏まえて来年度の国保税の税率の決定ということになるわけではありますが、これは6月議会になるわけであります。予算書で読みますと、ほぼ今年度並みの税収を予定しているようであります。決算見込みでそれなりの剰余金が出てきたとなれば、その分は新年度の減税財源として有効に活用していくべきではないかと思うのであります。6年度について国保税の値下げができないかどうか、どのようにお考えか、御説明をいただきたいと思います。

以上9点にわたってお尋ねをいたしました、御答弁によりまして再質問をいたします。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの神田議員の御質問の9点についてお答え

いたします。

まず、大きな第1の固定資産税、都市計画税に関します第1点目、固定資産税及び都市計画税についての調定額で前年度の決算見込額と比較しますと、固定資産税の調定増の内訳は、評価がえによるものが約30%、その他の70%は家屋の新增築、地目の変更、償却資産の伸びによるものでございます。都市計画税につきましてもほぼ同様でございます。

小さな第2点目、いわゆる未線引きの市とその都市計画税課税状況についてでございますが、未線引きの市は館山市を含めまして10市でございます。各市の状況につきましては部長より答弁させます。

次に、大きな第2、交通安全対策費の高井鞆戸川橋付近の県道交差点に信号機等の安全対策が必要と思うがとの御質問でございますが、現在この交差点には停止線及び規制標識等の交通安全施設が設置されております。御指摘の信号機の設置につきまして館山警察署に照会いたしましたところ、道路の幅員及び交通量等、現状での設置は困難と伺っております。

次に、大きな第3、国道127号バイパスの花植栽についての御質問でございますが、千葉国道工事事務所の許可を得まして、バイパス南北の交通の分岐点で行っております。北条及び正木地区の中央分離帯を活用しまして、観光地美化事業及び花のまちづくり推進事業を一体化して行っているところでございます。

次に、第4の小さな第1点目、都市計画費、都市計画用途地域見直し調査委託料についての御質問でございますが、調査委託するのはなぜかとの問題につきましては、用途地域の見直しには平成2年度に実施しました都市計画基礎調査を活用することになりますが、その後の建築動態等のデータを得るため、現地調査を行うものでございます。

次に、小さな第2点目、容積率や建ぺい率、日陰規制時間の選択をするのに住民の意向をどう考えるのかとの御質問でございますが、都市計画におきまして定める事項の計画案を住民の方々等の縦覧に供しまして、さらに都市計画審議会の意見を伺いながら手続を行ってまいります。

次に、第5、常備消防費の救命心得の大量普及を計画すべきと思うがどう

かとの御質問でございますが、住民に対する応急手当の指導は自主防災会の行う防災訓練の中で行っております。救命心得の普及につきましては、安房郡市広域市町村圏事務組合と協議しまして、これから検討してまいりたいと考えております。

第6、非常備消防費についての小さな第1点目、地元で常時いない団員がふえていると思うがどうかとの御質問でございますが、現在消防団員の勤務場所も拡大してきております。このため、団員勤務の職場の理解と協力を得るように努めているところでございます。

小さな第2点目、主婦などの自主防災組織で初期消火体制を強化すべきと思うがどうかとの御質問でございますが、合同防災訓練や自主防災会の訓練時に消火器の取り扱いや消火方法の指導を行い、体験を通して初期消火方法等の習得に努めているところでございます。

第7、沼サング層の問題につきましては教育長より答弁申し上げます。夏休みの図書館の問題につきましても教育長より答弁申し上げます。

第9、国民健康保険特別会計に関します御質問の第1点目、平成5年度の決算見込みについてでございますが、現在のところ、冬期分の医療費の支払いを残しているところでございますが、予算の範囲内でおさまり、次年度への繰越金につきましては前年度程度かと考えております。

第2点目の6年度の国保税についてでございますが、医療費改定の影響などが見込まれ、非常に厳しい状況ではございますが、税率は据え置く考えでございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 教育長。

（教育長高橋博夫君登壇）

◎教育長（高橋博夫君） 大きな第7、沼サング層見学施設整備請負費について、その小さな第1点目、どのような施設の構想かとの御質問でございますが、沼サング層は昭和42年、千葉県指定天然記念物として指定を受けております。見学施設につきましては昭和47年に建設したもので、老朽化が著しいため、県の指導により、現在と同規模の見学施設を建てかえし、あわせて

見学者のための誘導標識等を設置してまいる計画でございます。

次に、小さな第2点目、全体的な調査と保護、保全についてはどのように考えているのかとの御質問でございますが、沼サング層の全体的な調査は、千葉県地学図集第4集サング編としてその成果が取りまとめられているところでございます。今後館山市教育委員会といたしましても、沼サング層の分布状況や種類等の情報収集に努めるとともに、千葉県教育委員会や館山市文化財審議会とその調査や保護対策について協議してまいりたいと存じます。

次に、大きな第8、夏休み中の開館時間の延長はどのように検討されたかとの御質問でございますが、平成6年度につきましては、利用者の便を図るべく、夏休み期間中の開館時間を午前9時から午後6時までと1時間延長し、実施していく考でえでございます。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 総務部長。

◎総務部長（斉藤賢司君） 未線引きの市についての御質問でございますが、未線引きの市は10市ございまして、館山市を含め、銚子市、佐原市、茂原市、東金市、八日市場市、旭市、勝浦市、鴨川市、八街市の10市でございます。このうち、平成5年度におきまして都市計画税を課税している市とその税率につきましては、銚子市 0.2%、佐原市 0.3%、茂原市 0.2%、東金市 0.2%、旭市 0.2%、八街市0.25%となっております。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 固定資産税の評価がえの影響は、実際には来年の増税の3割、これが固定資産税の評価がえによる結果として出た。これは9月の議会で質問したり何かしたけれども、基本的にこれは、評価がえというのは税の不均衡を正すというのがねらいであって、増税が目的ではないというのに何で増税になるんですか。でこぼこがある、不均衡、不公平があるから、それを平たんにしますよ、できるだけ公平にしますよ、しかしトータルでは増税になりませんよというのが建前なんです。だけれども、実際に予算書をつくったら増税になって、だまされたということになるわけです。ですから、なぜこういうような3割が今回の上でなったのか。こういうことがあ

ると、来年もなっていくし、再来年もなっていくわけです、これ恐らく。ということは、この増税の問題というのは大変重要な問題だと思うんです。この評価がえによって結果的に増税になったというのがどうしても理解できませんので、これについての御説明をいただきたい。

そして、次に都市計画税についてですけれども、10市これが、都市計画税未線引きの市があるということでありまして、その中で館山市を含めまして7市ですか、都市計画税を徴収している。あとの3市は徴収をしていないということです。しかも、徴収しているという中で、0.3%の制限税率いっぱいまで取っているというのは佐原というようなお話で、ほかのところは0.2ですとか0.25ですとか、制限税率いっぱいまで取っているところも少ないわけです。館山市はそういう点では制限税率まで、都市計画税をぎりぎりまで取っている。税率の高いところなんです。これはどういうふうにお考えになるか。現実論として考えた場合は、評価がえによって増税になる。その中身によりまして、なった。しかし、制限税率いっぱい取っている都市計画税の税率を多少とも値下げをして、トータルでは市民の税負担は結局ふえないんだというような措置が政治的に行われるならば、それはそれで評価できることだと思うんです。そういうことを実際なさらなかったというのは、取るものは取るんだということしか感じられないんです。そういう点で、どういうふうにお考えになったのか。成り行きで、とにかく今までやっていたから取るんだということではどうも納得できないなと思います。

それから、第2点目、鶴戸川橋のところですが、これは一時停止の赤の点滅信号みたいなものもできないというふうに今の答弁で理解しているかどうか。あそこは一時停止をどうしても怠るところになりますので、そこを何か工夫をしなけりゃいけないなと思うんですけれども、今の段階で市としては打つべき手はもう打っている、もうこれ以上できないというようなお考えかどうかお聞かせいただきたい。

次に、花の問題でありますけれども、国道バイパスの花の問題ですが、館山のこのバイパスというのは、今車で来る人にとっては、いわば館山の表玄関というようなことになろうかと思います。結構植栽帯も長くて、かなりの

距離があるんですけれども、ほんの入り口のところで正木の部分と、それから逆に出口の北条の部分ということを現実はやっているだけで、これはもっとできないのかな。率直に言って、現在幾らこれに金かけていくお考えなのか、全体にやると大体幾らかかるというふうに踏んだらいいのか、この辺、もっとできないのかということでお聞かせいただきたいなと思うんです。この問題は大部分住民からも、何でああいうことにしているんだというふうなことで、私も意見を聞く機会が結構あったものですから、その辺についての御説明をいただきたい。

それから、都市計画の関係であります、いろいろと白地域を例として挙げましたけれども、住居地域についてもいろんな選択が出てくるわけですが、これも、全体として、住民の縦覧に供して都市計画をしていくのは、これは当たり前なんです。当然のことなんですけれども、しかし今回の都市計画法の改正の趣旨というのは、都市計画のマスタープランには住民の参加をなさいということを書いてみれば法律上義務づけたんです。今までより一歩突っ込んだ形で、住民参加の中で都市計画をつくっていくというのが法律の趣旨ですから、今の市の答弁ですと、従来の域を超えていないな、同じだなという感じがするわけです。現実はこのマスタープランとの兼ね合いもあるわけですが、積極的に住民の意向を聞いていく、そういう住民の都市計画決定に当たっての協議会とか、あるいは町内会単位に説明会をしていくとか、そういうことを含めて、そういう過程を通してこうした選択を考えていく、住民自身の中に問題を出していくということが大変大事なんじゃないか。縦覧というのは、もう決まった段階で、これでいいですねという話だけです。住民にとっては 100%か 200%か 300%、どれがいいだろうかと具体的な提案があって、それについてどう考えようかといろんな議論があって決めていくというのと、例えば 200%に、これでいいですねと初めから出されるのとでは雲泥の差があるわけです。そこらについて、実際の問題としてはどういうふうにお考えになるのか。確かに時間的な制約はあるんです、これ。いつまでもやっているというわけに――時間が、しりっぺたが決められていて、3年以内にですか、決めなきゃいけないという問題は、それはそれとし

てわかりますけれども、そういう点で住民参加をどう進めていくのかという点でのお考えをもう一步突っ込んだ内容でお聞かせをいただきたい。

それから、救急医療の応急措置の問題でありますけれども、広域と協議してやっていくということなんで、ぜひこの問題は期待をしたい。私自身の個人的な体験と言ってもいいんですけれども、一昨年になりますか、議会の中で石井議員が突然倒れるというようなこともありました。そういうことで、本当にそういう体験を持ちますと、どきまぎしてしまうといいますか、率直なところとしてあるわけで、直ちに消防の本部から駆けつけてくれたんですけれども、その時間というのはやはり随分長いという感じを持つんです。そういうふうに、来るのに何か随分時間がかかるという — そういう立場になるとそういうふうに思うんでしょうけれども、それでそのときに応急措置として適切なことができたんだろうかという思いはやはり感じるわけです。ですから、そういう知識や技術、技能を多くの人が持っているということが本当に大事なことだと思うんです。東京都の例なんかですと、職場単位にこの講習会をやるのかというようなことで、そういう人をうんとふやしていくというような、あるいは町内会単位というようなことで進められているようですけれども、こういうカリキュラムの内容ということもあろうかと思うんですけれども、率先して市役所の職員はこういう応急措置の技能や技術を習得しようということになりますと、例えば館山市役所の職員がみんなそういう技術を持つとなれば、館山市全体としてはかなり多い職場ですから、非常に心強いことになると思うんです。そういう点で、市としても非常に率先してやっていくんだというようなことを含めて — 具体的な内容は今の段階でどうこうということは、もう少し検討してということになると思うんですけれども、そういうような気持ちでお考えになっていただきたいと思うんですが、その辺何かお考えを聞かせてもらいたいと思います。

それから、初期消火の問題でありますけれども、市はそれなりにやっていることは、私も御答弁の内容はわかります。それなりのことはやっている。しかし、例えば千倉町で取り組んでいることなんかには比べますと、そう市が一生懸命だなという感じはしないんです。千倉町なんかでは町内会単位にや

っていて、例えばある町内では、火災は昼間とは限らないから、今度は夜を想定して、夜の消火訓練をやってみようじゃないかとかということがやられるとか、非常に各町内で工夫をしてやられているんです。その基礎になっているとか、背景になっているというのは、まちづくり全体の中で 200メートルというようなことを考えながら消火栓が設置されていて、その消火栓が——各町内で消火器具箱が置かれていて、それぞれ家庭の主婦だとか、あるいは高齢者等も含めて、そういったものが扱えるような訓練を中心に行っているんです。そういう意味では、ソフトの面だけではなくて、そういうハードの面といいますか、こういう点で非常に行政がそういう施設整備を進めているということがあるわけです。そういう点では、例えば消火栓の問題をとりましても、館山市の場合にはだれでもが、住民が消火栓を扱えるというふうになっていない。また、その設置の全体の計画の中でもまだまだ少ないというような問題もあると思うんです。そういうことで、新年度では大分——館野、九重地域が多いんじゃないかと思いますけれども、かなり消火栓の設置数も多く出ていますけれども、地域の住民がいつでも扱える、そういうようなことを視野に入れてやはり考えていかなきゃいけないんじゃないかな。そのためには、やっぱり消火栓の器具箱等を設置するというようなことも含めて、施設の整備ということを考えていく必要があるんじゃないかなと思うんですけれども、その辺についてどうお考えになっているかお聞かせいただきたい。

長くなりますので、これで……。

◎議長（福原 勤君） 総務部長。

◎総務部長（齊藤賢司君） 先ほど市長の御答弁で、固定資産税の増額した分の約30％は評価がえによるものであるということで御答弁いたしましたけれども、今回の評価がえは、地価公示価格の7割を目的として、いわゆる評価の均衡化、適正化を図るという目的から実施されたものでございます。したがって、急激な負担を避けるための調整措置、あるいは家屋については一律3％の減額を実施する等、その負担を軽減する方向で手当てがされておりました。その中で、実際1億数千万の前年度に比べて増がございました。

わけですが、そのうちの家屋の評価がえと土地の評価がえとを差し引きますと、約 3,800万円程度の増になるわけでございます。そういう意味で30%の内訳になるという御説明をいたしたわけですが、そういう意味で、この増は — 評価の均衡化、適正化というのは、館山市の内部の均衡化、適正化もございますし、全国的なレベルでの評価を実施したわけですから、そういう意味で、地価公示との均衡化、適正化という面もございますわけで、そういう意味でこういう結果になったということで、ひとつ御理解いただきたいというふうに考えております。

次に、都市計画税につきましてでございますが、都市計画税については、御存じのとおり、館山市では今都市計画事業を大きく進めている状況でございます。都市計画事業自体、やはり実施することによって市全体がある程度の利便性を享受するという面もございますので、そういう見地から、都市計画事業の貴重な税財源といたしまして活用させていただいておるところでございますので、今後ともそういう観点で都市計画税をお願いしてまいりたいというふうに考えておりますので、よろしく願いしたいと思います。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） 鵜戸川橋付近の交差点の安全施設の整備はすべて手を施してあるかという御質問でございますけれども、先ほど市長から答弁したとおり、信号機の設置は困難であるということから、今後ほかにどんな安全対策が必要かどうか検討してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） 国道 127号バイパスの花の植栽についての御質問でございますが、現在植栽している件については幾らぐらいかかっているかというふうな御質問でございますが、現在は夏、黄花コスモス、春は菜花ということで、約 200万でございます。全体で幾らかかるかという御質問でございますが、面積的にちょっと把握しておりませんので、お答えを御勘弁いただきたいと思います。

ただ、管理が建設省の千葉国道工事事務所でございます、かつては私どもの方で植栽をしたいので占用をお願いしましても、場所によりましてはちょっと認められないというような場所もございます。そういうところもございますので、やはり千葉国道工事事務所と協議をする必要もあろうかと思いますが、御指摘のように表玄関、いわゆる車で来た場合の表玄関でございますので、前向きに進めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（三平孝司君） 地区別に住民の説明等を行う必要があるということでございますが、用途地域の見直しを行うに当たりましては、既存の建物の状況、あるいは技術的に検討いたしまして、全体のバランスを考えながら計画案を策定していく必要があると思います。また、個人の土地利用の考え方につきましてはいろいろ——中高層建築をしたい人、あるいはまた低層の建築として良好な住環境を保つ人、そういうような考え方、これは千差万別あると思います。そういう中で、地区別に説明会等を実施した場合には、非常に住民の意見がふくそういたしまして、その集約の困難が予想をされるのが1つございます。そうではございますが、全国的に見直しを今回行っておりますので、今後県の指導等を受けながら検討してまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） 救急の普及ということで御質問がございましたけれども、その中で市の職員は率先して普及に努めたらどうかという御質問でございますが、市民の普及とあわせて、今後広域圏と協議してまいりまして、普及に努めてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 水道課長。

◎水道課長（谷貝 実君） 消火栓の関係でございますが、来年度予定しているのは主として、数から言うとは拡張区域内でございますが、そのほかにも

道路改良等に伴いまして、既給水区域内におきましても消火栓、あるいは大きな団地、例えば南町のコミュニティ団地内、その辺も来年考えているところでございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） 消火栓との関連の御質問の中で、消火器のボックスの設置という御質問がございましたけれども、これにつきましては維持あるいは管理、それから設置の場所等いろいろ難しい問題がございますので、現在のところは設置は考えておりません。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 以上で21番議員神田守隆君の質疑を終わります。

次、26番議員辻田 実君。御登壇願います。

（26番議員辻田 実君登壇）

◎26番（辻田 実君） まことに申しわけありません。通告いたしました9点、神田議員と同じ数でございますけれども、質問させていただきますので、よろしくお願いいたします。

まず最初に、25ページ、第1款第1項市民税について御質問いたします。具体的な質問につきましては、この市民税の2億6,358万7,000円の減収について、その内容、そして予算化するに当たっての対策をどのようになされたかという点について御質問を申し上げます。この内容につきましては、補正予算の中でもって、質疑の中でもっておおむね論議されておりますが、答弁の内容が非常に簡明であり、私が浅学なために理解できない面が非常に多かったのです、その点をもう少し具体的に、数字的に教えていただきたいというふうに思います。

補正予算の中でもって、本年度のというんですか、現在の市民税の未納額は1億7,000万円ぐらいということが答弁されておりました。そして、その前の繰越金と合わせてここに計上されておると言うんですけれども、若干額が低いように思うわけでございますけれども、この点についてはどのように考えておられるのか、教えていただきたいとします。

特に、この中でまず第1点に質問しておきたいことは、個人市民税の徴収率を、昨年は0.98であったものをことしは0.975に下げているわけでございます。この率は低いけれども、額は相当なものになるわけでございます。今館山市の財政が非常に厳しい、税収を少しでも確保しようという中でもって、本来だったらこの徴収率を少しでも上げて税収を確保しようというのが普通の執行部の考えだと思います。我々も当然だと思います。しかし、どういうわけか今回は、財政事情が厳しい厳しいと言っているながら、徴収率を下げれば額が減るのは当然でございます。そういう人為的な面がここにあるんじゃないか。私はこの点について理解できないわけでございますけれども、この点をどのように考えておるのか、お聞かせをいただきたいと思うわけでございます。

同時に、個人市民税の繰り越しについても、繰り越しの調定額——厳しいかもわかりません。補正予算の中でもって私は努力しなさい。これが2億近く未納額があるわけだから、過年度分としては1億7,000万と言っていましたけれども、それで1億2,000万を補正するんだから、その徴収を70%ぐらい、滞納金のものを徴収すれば、補正予算を組まなくともよかったんじゃないか。市長が補正予算を組むというのは大変なことだと思います。我々議員が質問していれば、ある程度責任は果たせますけれども、市長は執行者ですから、大変な気持ちでもって減額補正していると思うわけでございます。なのに、ことしはこの調定額でもって2億3,200万の繰越金が出ております。昨年でもっていくんだったら0.365の徴収率でございます。ことしは何で0.25に落としたんですか。このことによって額が減るんです、かなり。この点について全く私は理解できない。むしろ逆に、昨年0.365だったから、これからいけば、0.4ぐらいに上げるということになれば、かなりの予算の確保というのはできるはずでございます。

繰返し質問申し上げて申しわけないんですけれども、この市民税というのは前年度——この場合には平成5年度に所得のあった、収入があった収入についてかけるんです。したがって、金がないということはないんです。いろんな事情が出てきて納められなくなるかもわかりませんけれども、こうい

う状況については、もう少し未納というものについては真剣に考えてよかったんじゃないかというふうに思うわけでございますけれども、この点を見てみると、国や県は財政が少ない、税収が少ない少ない、こういうことを言っている。地方財政計画でもそう言われているから、どうもそれをまねして、館山市も税財源を少なくしないと格好悪いようなことになるとか、それとも — 国の方針に非常に追随し過ぎしている感があるものですから、どうしてもそういう面に合わせる傾向に、迎合するような面が私はあるように思うわけです。少なくともこういう点まで国の方策を忠実にやっていくということになりますと、私は大変なことだと思います。少なくともここは徴収率、そして滞納繰越分の徴税率、これを下げていくという点についてひとつ — これはもう大問題でございますので、そして特にこれは人為的なものですから、政策的なものなのですから、この点についてひとつ明快な御答弁をいただきたいと思います。

2 番目には、29ページに移ります。29ページの真ん中辺の11款1項5目2節、水産使用料 254万 7,000円でございます。ことしの予算でもって非常に予算が減額しているのは、市民税と、そして競輪収入の1億円と、それと国、県の支出金の減というのが大幅なんです。それと、ここでもって負担金の中が減っているんですけれども、そこに漁港占有料が 1,450万という非常に大幅な減額を見ているわけでございます。前年度は 1,700万でございますから、1,700万の使用料が 1,450万減ってしまって、わずか 250万になったというのはどういう事情なのか、どういう形の使用料がどういうふうにして取られておったのか、これがどういう事情でもって — 1,700万が 250万になっちゃうわけでございますから、全くなくなっちゃうに等しいような減額になった理由はどういう理由なのか、教えていただきたいと思います。

34ページに移ります。34ページの13款2項5目1節の農業費補助金でございます。この農業費補助金につきましては、去年は1億 4,400万の計上でございますから、ことしの県の支出金は 7,100万、半額でございます。増田議員がガット・ウルグアイ・ラウンド後におきますところの米の自由化に対するとところの農業政策の振興はどのようになっておるんだということを質問さ

れておったわけでございますけれども、その農業振興費の根幹であるところのこの県の支出金が半分に減ってしまったということはどういうことなのか理解できません。細川内閣も沼田知事も、自由化に伴うところの農業政策は十分やっています、予算も別枠でもって組んでやっていますということを再三報道されております。しかしながら、現実的には館山市の場合には国、県の補助金が半分に減っちゃった。こういうことはどういうことなのか、その点について御説明をいただきたい。

この中でもって、具体的には沼のビワ組合のハウスと、それから江田、神余のふん尿処理場の施設の事業が終わったから、それがなくなったからその分だけ半分減っちゃったんだ、こういうことかもわかりませんけれども、しかしそれで終わったらもうあとはないということじゃなくて、それが終わったら、同時にやはり市としてそれにかわる振興対策費を、県なり国に積極的にかみついて、前年以上のものをもらってくるというのが今の財政の厳しい館山市におきますところの農業の振興だと思います。まだそういうことをやらなきゃならないものは農業の中にもたくさんあるわけでございます。その点、国、県じゃ自由化に伴うところの対策をやる。しかしながら、今やっている事業の補助金が切れちゃったということは、農家の人に対しても、館山の産業の面からいっても、私は言いわけが立たないような感じがするわけでございます。ここら辺の経過について少しわかりやすく説明していただきたい。そうでないと、我々議員としては全く農家の人たちに顔向けできないというような状況になりかねませんので、ひとつよろしく願いをいたしたいと思います。

それから、今度歳出の部に移りたいと思います。70ページに移ります。70ページの一番上から2行目でございますけれども、2款4項7目8節報償費、最上段から2段目に選挙運動用自動車運転手報償金21万円というのがございますけれども、質問の内容としては、この選挙運動運転手の21万円というのはどういう内容でもって、どういう積算なのかお尋ねをいたしたい。

これに関連いたしまして、今議案として上程されておりますところの選挙運動の公費負担のものだというふうに思うわけでございますけれども、とい

うことになりますと、選挙運動運転手だけでなく、宣伝車、それから燃料、ポスター等の項目がこの項目の中に見当たりません。レクチャーのときにはどこかに入っているというようなことでございますけれども、どこにどう入っているのかちょっと——私も随分、予算書は何年も見てきて、精通していると思いますけれども、どう見ても、この中のどこにそれが入ってどうなっているのか全くできませんので、新規のときぐらいは私は少し項目をきちんとして、わかりやすく入れてもらいたいと思います。これはもう神わざでなければ、私はどこに幾らどうなっているか全く見当つきません。だれか見当つく人がいますか、この問題について。ちょっと不親切ですから、これはきちんと説明してもらいたい。

そしてその場合に、まだ条例は通っておりませんが、いろんな不確定な部分があります。ポスターの設置場所の数によって補助の額が決まってくるというようなことです。どういう積算でもって組まれておるのか。それは議案の審議の中でもって審議しましたけれども、そのときポスターの設置場所は150幾つ、それから選挙運動期間は何日だから、したがって最高限度額はどのぐらい。したがって、今回の場合には最高限度額、こういうことなのか。同時に、これは市長選挙でございますけれども、この場合、候補者の数によって——前は3人でございましたけれども、これが5人、6人と出たらどうするのか、何人ぐらいを想定してこの予算を組んでおるかという事は——候補者の数等は全くわからないわけでございますから、そこら辺において、その積算の基礎はどういう形でもって——今言った候補者の数が違う、ポスターの掲示場所が決まっていなから、どのぐらい設置したか、こういうようなことでもって額が大幅に違っちゃうわけでございますから、そこら辺をどの程度に見込んで予算編成されているのか、この点について御説明をいただきたいと思います。市長選挙のことですから余り関係ありませんけれども、市議員も連動するわけでございますから、ひとつその点について細かく教えていただきたいというふうに思います。

105ページに移ります。6款4項3目19節の補助金の中でございますけれども、このちょうど真ん中辺にございます高品質園芸生産流通施設事業補助

金 2,800万と、それからその2つ下に千葉県野菜産地総合整備事業補助金 1,089万というのがありますから、これについて御質問を申し上げたいと思います。

最初の園芸生産流通施設というのは、昨年3棟をつくるということでもって900万計上したんですけれども、これが不採択になったということでもって予算が流れたんですけれども、今回は19棟を建てるということでもって、非常に結構なことなんですけれども、去年不採択になって、ことしは採択の見込みがあるのか。不採択ということはかなり穏やかじゃないわけですから、それが一挙に19になるというのは、そういう見通しがついたのか。それでもって、それについて、去年もやっぱりついたということでもって予算化されたわけなんですけれども、不採択になったんですけれども、今回の場合にはかなり見通しなり、そういうものは明るいのかどうなのか、この点についてお伺いしたい。

それから同時に、去年の予算は1つのハウスが3,000万円だったんです、補助単価が。補助が3,000万ですから、したがって農協の方が倍額ですから約6,000万で建てるという予算であったんですけれども、ことしの予算はこれでいきますと1棟当たりが1,500万、去年の半分になっちゃったわけです。どうして1年間で半分になってしまったのか、半分にしなければ補助金がもらえないということでもって半分になったのか、この点についてお伺いしたい。

そして、これは農協がリースするわけですから、事業体は、19カ所というのはどこへ——どんなハウスですか、これは。園芸ということですからいろんな園芸があるんですけれども、どういう園芸に貸そうとして、19カ所、どの地域へどのようにこれをリースとして——非常ありがたいことですからやってもらいたいんです。ですから、どの地域にどういうふうに計画されたものか。それはある程度、もう予算化してきているんだから、その地域との話し合いがついているのかついておらないのか。ついておるから県に補助金を申請したかと思うんですけれども、その地域を教えてください。これから地域を決めるなんていうことになると、随分またあやふやになってしまい

ますから、そこら辺ひとつわかりましたら、説明欄にはそこまで書いてごさいませんので、御説明をいただきたいと思います。

次の野菜産地でございますけれども、これはいちご園だそうでございますけれども、いちごは野菜だということを今回初めて理解をいたしました。勉強になりまして、ありがとうございます。

ここのハウスでございますけれども、これは3棟を協同組合でつくるということでございますけれども、どのようなものでどのぐらいの規模のものなのか。これは面積は書いてありますけれども、それについてもう少し具体的に教えていただきたい。

これに関連いたしまして、これは観光問題と絡みますけれども、現在観光いちごというのは非常に評判がよくて、お客様がたくさん来るわけでございます。聞くとところによりますと、先々週のいちごの即売会では、地元のいちごが足りなくて、ほかから物を持ってきて売るといような状態でもって慌てちゃった、こういうことでもって、これは何事だいということでもって伺いましたところが、もう働き手がいなくてもって、いちごができないんだよ。特に、早場物をやるときには、石油をたいたりいろいろなものをやらなきゃいけないから、今の時期に出すにはとても館山の中じゃできない。問題は労働力だ。後継者がいないからこういう状態になっちゃうんだ。これからこの状態じゃ、お客が来ても、こういう状態は毎年繰り返されることになりますよというように聞いたけれども、その実態はどうなんですか。どの程度事実なんですか。どのぐらい深刻な状態なんですか。今の状態でもそういう状態ですから、幾ら騒いだって、品物を買ってきてやるということでもって、他の町村のいちごでもって観光をやってやろうなんていうのは何かおかしいことでもって、がっちりとやっぱりいちごを生産して、どうぞいらっしゃい、余るほどつくりますというぐらいの体制を今市がつくってやらなきゃいけないんじゃないですか、これだけやっているわけですから。そういう面で、今回のこのいちごのハウスというのは対応できるのか、そういうものに対応して措置されておるものか、これについて非常に心配になるものですから、私も今回聞いてびっくりしちゃいましたんですけれども、そこら

辺とあわせて実態の説明をお願いいたしたいと思います。

それから、119ページに移ります。一番下段の方に、8款1項1目19節の負担金中、滝川改修促進協議会の負担金22万円が計上されているわけですが、これについても、これについて質問を申し上げたいと思います。

これに関連いたしまして、通告質問の中でもって、滝川流域の館野、九重地区の冠水状況がひどい、目に余るものがあるということでもって質問を申し上げまして、市長はこれについて対策を講じておる。特に、滝川地域の改修というものは緊急なので、これは県のものだから、十分県に要望していく、こういうことですが、昨年も協議会ができたそうなんですが、あの冠水に対策するのに、この協議会でもって22万円ぐらいの補助金出してやってどの程度のものでいいのか、私は心配なのでありますが、これでは本当に冠水対策を市が本腰を入れてやるという姿勢じゃないと思います。市長も自分のうちの近くだからわかると思いますけれども、あれをもう毎年毎年放置しておくという事はできない問題で、地元の人は言いづらくもわかりませんから私がかかわって言うわけですが、何とかしてやらなきゃ、本当にもう市の恥ですから——恥じゃなくて、もう地域の人は本当に困って、田んぼなんかみんな水濁っちゃうそうなんですが、私も行きました。かなりひどいです。これに22万ぐらいのものをやって、早く言えば、あめ玉22万やるから、地元の人、これでもっていいでしょうなんていうようなことにとられたんじゃない大変なことでもって、もうちょっと県へ行くんだったら行くように、とにかく1週間に1遍ぐらい車並べて行って、何とかやってくれぐらいの——そのぐらいだとちょっと横暴ですけども、となってくると、これじゃ1回か2回の会合費ぐらいだと思うんですけども、熱意が見られない。この点について、これはどの程度それがああいう問題を解決するために効果が発揮できるのか、これで十分と思っているのかどうか、その点についてお伺いしたい。

同時に、あの滝川流域の通告質問でしました地域の対策費としてどの程度、ほかに予算の項目がないんです。特に。あったらあの冠水状況の解消のための費用というのは、解消のための費用というのは、具体的にはどの程度のも

のがどこに入っているのか。私もかなり調べたんですけども、直接関係するものはないんで、直接関係するのは22万、これで全部やりなさいということとはちょっとひどいような感じがしますので、これらについての御所見をお伺いしたいと思います。

それから、123ページ、8款4項1目19節、館山港の修築負担金でございますけれども、これが3,700万。去年は3,600万計上されておったんですけども、この内容についてお尋ねします。岸壁の耐久改修工事の負担金ということでございますけれども、これが3,300万円でございますけれども、総額の工事費は幾らぐらいになるのか、そしてどのぐらいのものが直せるのか。毎年毎年やっていたって、かなり老朽化が進んでいるわけでございますから、もう全くどうにもならないような気がするんですけども、抜本的な改修に迫られているんですけども、これらについてどういうことなのか、こういう状況がさらに続いていくのかどうかをお伺いしたい。

その中に緑地帯の整備が75メートル行われるということでございますけれども、これはどこの場所になるんですか、港の中の。緑地帯75メートルというのはどんなものが植えられようとしておるのか、その内容について説明をいただきたいと思います。

次に、141ページの10款2項15節の工事請負費、一番上から2行目にございます小学校プールろ過装置の修繕工事請負費でございます。これにつきましては、144ページの上段から4行目に中学校のプールのろ過装置の予算も組まれておるわけでございますので、あわせて小中学校のろ過装置の修繕工事請負費について、その内容を教えていただきたいと思います。

ろ過装置というのは非常に大事なものであって、今皮膚病だとか、プールの水がどうのこうのと盛んに問題になっておりますので、これがちょっと調子が悪いということになりますと、病気だとか皮膚炎になるとか、いろんなことが出てきたら大変なことであるわけですから、これはもう絶対的にきれいな水ということで、全く適当でいいやということはありませんのでございますから、神経をとがらせなきゃいけないんですけども、これが毎年毎年、去年も同じような形でもって小刻みなものが出てきているんですけど

も、私はやっぱり修理をしなきゃならないという状況のものがあれば、これはもうすぐにやらなきゃいけない、そう思っています。したがって、このろ過装置の修理をしなきゃならない状況、今小中学校のプールのうち何カ所ぐらいあるのか。それで、これを予算だから年度年度やっていくなんていうことじゃ私は大変だと思うんで、必要があれば補正予算でも組んで、6月に補正予算を組んで、夏の水泳のシーズンには汚い水の中で泳ぐなんていうことがないように、汚い水で泳いだために皮膚病が出た、何だかんだといったらもう大変なもの、取り返しがつかなくなりますので、そういうものだと思いますので、この内容がどうなのか、全体にはそのろ過装置の状況はどうなっているのか、あわせて御説明をいただきたいと思います。

それから、最後になります。申しわけありません。あと一つでございますから。これは 161ページ、10款6項2目13節並びに15節の東市民運動場体育館の改修工事請負費並びに設計費でございます。先ほど植木議員が私が質問しようとしたことと全く同じことを質問されましたので、かなり重複いたしますので、重複する部分は抜きまして、答弁の中から私がもう少し具体的に教えていただきたいということは、1つは東運動場を貸すという――医師会に貸したわけでございまして、議会の了解を得たところでございます。これについては新聞等にもすぐ――1月20日に議会でもって了承したということでもって大きく各新聞に出たわけでございます。気の早い人は、私のところによかったな、庄司市長は大したものだ、総合病院も東運動場に決定して、いよいよこれでもって実現するな、議員の方もひとつ賛成してやってくれ、辻田君、反対するなよと言うから、私が出ていくと何でも反対のように思われて、私はその推進の急先鋒だということで、それだったらいいということでもって、これでやっと光が見えたということで、これは医師会病院の幹部の人にも言われたし、それから地域の人にも相当言われているわけです。市長もそれは承知だと思います。ということが1つ。

それからもう一つは、議会の了解を得るときに、県にこの申請書を――運動場の土地だということでもって陳情した、医師会の会長と。市長も何か一緒に行ったような話も聞いておりますけれども、県の陳情に行ったときに市

長等も同行したのかどうかということ。そうすると、それは県に対して、東運動場にこういう形の病院をつくるから補助金をくれという陳情に行っているわけですから、もう貸しちゃっているわけです。県はそれを本当にまともに——まともと言うとおかしいんですけれども、受けとめてくれれば、よし、それじゃその土地へ補助金をやらなきゃならないということで少し考えるでしょう。考えている最中にその施設に体育施設をぼんとやられたんじゃ、何だいという気になります。もらえる補助金ももらえないと思います。そこから辺を県の方に十分説明に行かなきゃならないと思いますけれども、その点をどのように考えておるか。

3番目に、医師会の方から議会に対して、市に対して要望して、今の土地が狭い。5,000坪ぐらい欲しいと言っておったんですけれども、東運動場は私も言いましたように5,000坪ないと思います。何坪ですか、それを後で教えてください、正確に。狭いけれども、あれだけあれば何とかなるよというのが——医師会の幹部や関係者が私のところへ来たときそういう話をしました。狭いけれども何とかあります、あれだけあればということです。そこに植木議員が言ったように体育施設をつくって、あれだけのものを——1,700万、設計料を入れて2,000万近くもかければ、かなりこれから2年、3年使わなきゃならない。あそこだけ使えばいいんですけれども、自動車や自転車が来て置き場がある。狭い医師会病院という中において、とてもじゃないけれども両立はしない。この点についてはどういうことなのか。

この点について2つ教育委員会に対して伺いたいんですけれども、一つは、直ちにスポーツ審議会等について、あそこをもう医師会に貸しちゃったんですから、貸した土地に——貸すということでもって、ほとんど貸したと同じような状況の土地にあれだけの体育館をつくりかえるということについては、ある程度放棄です。それをスポーツ審議会にかけて、スポーツ審議会でもって、病院をつくるんだったらやむを得ない、貸してもどうぞということを諮ったのかどうか。

2番目に、これは市長部局の方に聞きますけれども、市長部局としても、総合病院をつくるということで医師会病院に貸して、医師会病院がそれに基

づいて、あそこへつくるんだと設計書を持って県に陳情に行っているということを知っていながら、教育委員会の方からどういう経緯の結果が出たか——審議会の結果等もあると思いますけれども、そして今度は雨戸や何かを直さないとちょっと危険な状態になってきたから、予算を1,700万組んでくれという要望が出てきて、はいそうですかと財政当局はそれでもって入れちゃったのか。大きな矛盾の調整を市はできなかったのか、その調整をどういうふうに——かんかんがくがくやったと思います。その経緯を教えてください。いきなり議会へ出されたって、それは迷惑であるわけですから、片一方で病院をつくるということでもって市長部局でやっている。そして、県も補助金を出している。片一方は、あそここのところが壊れてきて危ないそうだから、1,700万でもって改修して使いたいという、病院とすれば相反するものについて相当の調整が出たはずなんですけれども、この調整がどのような形でもって行われて、どのような折り合いのもと——植木議員は体育館の施設を使って、そのほかの余ったところでもってできるのかどうかと言っていましたけれども、そういうこともあったんだと思います。私はそれ以前に、医師会病院は、あそこは狭いけれども、何とかあのぐらいあればいいということ saying していたところ、あそこをぱっと取られちゃったら、あそこを除外してなんていうことは、もうとてもじゃないけれども、話が白紙に戻っちゃうような感がするわけでございますけれども、そこら辺はもう当局の方がよく知っているわけでございますから、そういうことが同時に議案として出てくるということについてもうちょっと——私は頭悪いですから、わかりやすくひとつ御説明のほどをお願い申し上げたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの辻田議員の御質問にお答えいたします。

まず最初の市民税の問題でございます。市税収入が平成4年度の決算額と比較して減少している原因についての御質問でございますが、主な原因は、景気低迷によります個人市民税における譲渡所得の激減及び法人市民税における法人税割額の減少などでございます。また、市税の滞納繰越分の対応策

についてでございますが、税負担の公平という観点から、未納額の縮減に最大の努力を図っているところでございます。細部につきましては部長より答弁いたします。

次に、水産使用料の御質問でございますが、水産使用料は漁港区域内における建築物、電柱等の占用料でございます。減少の理由といたしましては、平成5年度当初予算における農林水産使用料1節の豊房育成牧場使用料が1,458万円減ったものでございます。

次に、農業費補助金が平成4年度決算額に対しても減っているのはなぜかとの御質問でございますが、農業関係の補助事業が単年度事業でありまして、毎年度異なること、さらには事業採択が国庫補助か県単独補助かによりましてその補助率が違いますので、総体補助金額が平均化しないものでございます。

次の質問の報償費の公費負担条例に関する予算問題でございますけれども、選挙管理委員会の委員長より答弁申し上げます。

次に、歳出の園芸生産流通施設及び野菜産地総合整備補助金についての御質問でございますが、平成5年度リース事業で計画しておりましたのは鉄骨構造でございましたが、平成6年度は簡易パイプハウスとなったため、単価に差が生じたものでございます。なお、平成5年度に計画いたしましたいちごのリース事業につきましては、平成6年度の野菜産地総合整備事業で同様に鉄骨構造で計画しておるところでございます。地域につきましては部長より答弁申し上げます。また、御指摘のいちご園に関しましては、いちご園の価値が広く認識されてきたこと、うれしいことでございまして、喜んでおります。施設の規模、後継者等も含め、今後組合の大きな課題であると考えております。

次に、2級河川滝川改修促進協議会負担金についての御質問でございますが、平成5年6月、滝川の早期整備を目的に、沿線の各種団体の代表者により組織されました協議会の負担金でございまして、これは会議費でございます。今後とも国、県等への積極的な要望活動を行ってまいりたいと考えております。

次に、館山港の修築工事負担金についての御質問でございますが、港湾管理者でございます千葉県が館山港管理事務所前面の既設岸壁延長90メートルを、大規模地震に備え、耐震構造に改修をしているところでございます。完成予定は平成7年度と伺っております。なお、出ました緑地帯の問題につきましては部長より答弁申し上げます。

次のプールのろ過問題、それから東市民運動場問題につきましては教育長より答弁申し上げますが、東市民運動場につきましてちょっと見解の違いがございますので確認しておきますが、東市民運動場はまだ貸与はしてございません。貸与する予定で進むから、どうぞ計画を進めてください、こういうことで向こうへ話してある、その段階でございまして、まして設計図ができたとか、そういうことはまだ聞いておりませんので、御理解を賜りたい、こう思います。よろしくお願いします。

◎議長（福原 勤君） 選挙管理委員会委員長。

（選挙管理委員会委員長加藤 利君登壇）

◎選挙管理委員会委員長（加藤 利君） 御質問の公費負担条例に関する予算の計上につきましてお答えいたします。

予算書70ページでございます。8節の選挙運動用自動車運転手報償金に21万円、11節の自動車用燃料費に15万 2,000円、14節の自動車借上料に28万 2,000円、また選挙運動用ポスターの作成は11節の印刷費に99万 1,000円、合計で 163万 5,000円でございます。なお、積算の基礎等につきましては選挙書記長よりお答えいたします。

◎議長（福原 勤君） 教育長。

（教育長高橋博夫君登壇）

◎教育長（高橋博夫君） 次に、プールろ過装置修繕工事請負費の内容についての御質問でございますが、学校プールの管理につきましては、毎年保守点検を行い、ろ過装置に必要な備品の購入や装置の改修を実施し、児童生徒の安全に万全を期しているところでございます。平成6年度改修工事の内容でございますが、小学校では神余小学校のろ過タンクと電気設備、中学校では第二中学校のろ過タンクをおのおの改修するものでございます。

次に、東市民運動場体育館の改修についての御質問でございますが、先ほど植木議員の御質問にもお答えいたしました、落下の危険のある外壁のモルタル部分、腐食した雨どい及び窓等、危険箇所の最低限の補修を実施し、当分の間社会体育施設として市民の利用に供したいと考えております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 総務部長。

◎総務部長（齊藤賢司君） 個人市民税の徴収率についての御質問でございますが、この徴収率の算定に当たりましては、現年分につきましては過去の実績を参考にいたしまして、ちなみに実績でございますが、平成2年度97.2、平成3年度97.2、平成4年度96.9という実績がございます。したがって、これら実績を踏まえまして、97.5%ということで積算したものでございます。また、繰越分につきましては、同様に平成2年度24.8、平成3年度24.7、平成4年度19.5という実績がございますので、これら実績を参考にいたしまして、25%ということで積算したものでございます。したがって、前年度の予算計上時の徴収率を若干下回っておりますけれども、過去の実績を上回る形で徴収を図っていかうということで、今回このような徴収率を定めるところでございます。またさらに、厳しい経済情勢の中でございますので、この徴収率をどうして確保していくかどうかを含めて十分内部で検討いたしまして、こういうふうに積算したものでございます。なお、この徴収率の向上につきましては、今後一層向上するように努力してまいりたいと考えております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） 農水産の補助事業に絡む御質問でございますが、まず高品質園芸生産流通施設促進事業、どこの地域で実施するのかという御質問でございますが、那古地区でビワ1棟、大神宮で花卉1棟、藤原で花卉2棟、インゲン3棟、洲宮で花卉4棟、布沼で花卉8棟の合計19棟でございます。

それから、千葉県野菜産地総合整備事業の事業を実施する場所でございます。

すが、いちごでございまして、いずれも館野地区でございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（三平孝司君） 館山港の修築の関連でございしますが、緑地帯の場所ということでございしますが、現在砂の堆積場があります、一番南側にあります館山港の進入道路でございします。植栽の樹種は、クロマツ、トベラ、ヤマモモ等が予定されております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 選挙管理委員会事務局書記長。

◎選挙管理委員会事務局書記長（平嶋倫治君） 予算書の説明が不親切ではないかとの御指摘でございしますが、地方自治法施行令、施行規則により定められた様式にのっとりまして作成したものでございます。

それから、候補者は何人で積算されたかとの御質問でございしますが、前回等の市長選を参考にいたしまして、候補者3人で積算をいたしました。積算の内容につきましては、選挙運動用自動車運転手報償金が1万円掛ける7日で3人、21万円になります。それから、燃料費でございしますが、7,210円掛ける7日で3人、15万2,000円になります。それから、自動車の借上料でございしますが、1万3,390円掛ける7日掛ける3人で28万2,000円です。もう一点のポスター印刷代でございしますが、2,104円掛ける157カ所掛ける3人ということで、99万1,000円ということです。積算は以上でございします。それから、候補者が多くなった場合につきましては、補正、流用等をお願い申し上げます。対応してまいりたい、そのように考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） はい、わかりました。

2点だけ聞いて、あとは、予算委員会が2日間ありますから、その中でもって十分審議していただきたい。何か私も予算委員に指名されるそうでございますから、その中でまた細かく伺いたいと思いますので、終わりますけれども、2点だけ伺っておきます。

1つは、総務部長答弁になりましたけれども、税収の問題です。これは今日本じゅう最大の課題です、去年からことしにかけて。そのときに――私は揚げ足とるわけじゃありません。去年からことしにかけて、過去の実績では困るんです。バブルがはじけて、過去の実績が当てにならなかったから減収になったんです。過去の実績のとおりに来ればこんなことはないんです。異常事態なんです。異常事態ということじゃなくて、過去の実績であるということについては、私は市としてはちょっと手ぬるいんじゃないかということ。

2番目に、そういう状況の中において、過去の実績に基づいて、過去の実績は徴収率が少なかったから、したがって滞納額なりその他を下げるということ、これは今すべきじゃないと思います。過去の実績じゃないんです、今困っているんだから。それでもって滞納が2億、それでもって市民税も30何億というものが入ってくる。その徴税率を下げれば――しかしながら、総務部長は下げてもこれまで以上に徴収はしていきますということなんですけれども、我々議員から見ると、市民から見ると、市の職員は難しくなったから徴税率を下げて少しサボろうという気じゃないか、こういうふうに誤解されます。それは私心外じゃないかと思います。私が言うわけじゃないんですけれども、人間というのは目標を下げると、それだけやらなくてもいいという気になる。少しでも成果を上げようと思えば、目標を少しでも高くして上がっていくというのが普通じゃないんですか。今こそ滞納金をどうしても取らなきゃ、財政も今までと違うんだというときにはなれば、そういうときにはなって徴税率を下げれば、下げたから少しほっとしたという気持ちになるのが普通だと思います、私は。その点どう考えておるのか。

それからもう一つは、今回の予算案――予算委員会の中でもって論議はしますけれども、こういうとき、国や県は行政改革をやって、不必要なものは、今すぐやらなくてもいいものは削って、そして重点的にやっていくという施策をとっています。そういうものが何か全然見られなくて、過去の実績に基づいてずっときて、この4年間の庄司市長が就任して以来の各項目の予算はほとんど変わっていません。枠組みも変わっていません。これでは、国や県が言っているところの今何とか使わなくていいものは抑えて、そして次に期

そうという — 景気対策に集中しよう、こういうことでやっているんですけども、そういう予算の努力というんですか、そういうものが見られないけれども、そういう点はどういう点で今回の予算でもって特徴的に出たのか。私はずっと計算してみたんですけども、ほとんど同じです。幾らも変わっていない。事業が中止になったとか程度のものであって、そういうものが見られないけれども、それはやられたのかやられないのか、この点についてお伺いしたい。

それから、最後に運動場の問題について。市長は簡単に答弁されますけれども、私はそれでいいと思います。だけれども、市長と私との見解の違いも、また市長にもその点を理解してもらわなきゃいけないのは、貸しますよということで県に陳情を出した。正式には貸していない。しかしながら、新聞報道その他でもってもうひとり歩きしちゃっているということ。市民があそこにもう決まったんだということ。県の方も、あそこに決まったんだろうから、あそこへ建てようということでもって、予算の陳情に市長や医師会長が来ているわけですから、それについて補助金を出そうという気持ちになっている。それがそういう不確定な状態というのは県に対しても失礼になると私は思うんです。この点を私は心配するんです。貸していないのは手続上の問題だけれども、事実上貸すということでもって、既に市民はそれでもって庄司市長は大したものだ、これでようやく念願の病院が庄司市長だからできるんだという期待をしている。それはもう新聞等でそうなっちゃっているんですから。県の方も、市民運動場を廃止して、そこへ病院をつくるんだ。市の決意も大したものだと思って予算を配分しようと努力していると思います。それが今の答弁、まだ貸してありません。したがって、当分の間危ないから 1,700万 — 館山で 1,700万の予算は大変です。それをつぎ込んで、何年使うかわかりませんけれども、やりますなんていうことになる、ちょっとこれは県に対しても失礼というんですか、こういう形でやっていくということは私はまずいと思います。この点についてどう考えておるのか。

この2点を — 簡単で結構であります、あとは予算委員会の中で十分詰めたいと思いますから。以上御質問申し上げまして、私の質問を終わりたいと

思います。

◎議長（福原 勤君） 総務部長。

◎総務部長（斉藤賢司君） 徴収率につきましては、先ほど御答弁いたしましたように、実績を上回る形で設定しているところでございます。これはやはり現時点では積算の基礎としてやっているものでございます。実際といたしましては、やはりこれをどういうふうに向かさせていくかということが最大の課題でございまして、私どもといたしましては、全庁を挙げての応援徴収体制、あるいは差し押さえ等の強制執行を含め、さらには住民税ということで、県との合同の滞納整理あるいは共同催告、そういうものを含めまして、日曜の滞納整理等も実施しております。夜間の電話催告、夜間徴収も進めております。あらゆる手段を講じまして努力しているところでございます。平成6年度につきましてもやはりそういう形で、市の財政として大宗をなす市税の確保については最大限の努力をしていきたいというふうに考えております。

次の2点目、今回の予算編成で、こういう厳しい中でどのような工夫をしたのかという御質問でございますけれども、私どもでは、やはり仕事がふえていくという中、あるいは物価も若干上昇しているという中にありまして、物件費を前年度比 5.3%切り詰めるという形で今回の予算編成をしたところでございます。そういう意味で、不必要な経費等についてはやはり切り詰めて、事業費に回すという姿勢で今回の予算編成に臨んだものでございます。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 助役。

◎助役（小幡清之君） 東市民運動場の件でございますが、確かに医師会からの申し出により、そういう線に沿いますという御返事がしてあるわけです。しかし、県に対して市としてどうということはまだ、その段階までいっておりませんし、いろいろ今辻田議員のおっしゃったことにつきまして、予算作成時には内部でも検討しました。しかし、公共施設として、やはりモルタルが落下して事故などが起きたんでは、これまた大変なことだということになるので、最低限の補修はやはりすべきであろうということになったわけですので、

で、御理解をいただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 以上で26番議員辻田 実君の質疑を終わります。

以上で通告者による質疑を終わりますが、通告をしない議員で御質疑ありませんか。 — 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

予算審査特別委員会の設置・付託・委員の選任

◎議長（福原 勤君） お諮りいたします。

ただいま議題となっております議案第2号乃至議案第9号、平成6年度各会計予算につきましては、10人の委員をもって構成する予算審査特別委員会を設置し、これに付託の上審査することにいたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、決定いたしました。

重ねてお諮りいたします。ただいま設置されました予算審査特別委員会委員の選任については、委員会条例第8条第1項の規定により、

1 番議員 秋山 光章君	4 番議員 齊藤 実君
8 番議員 永井 龍平君	10 番議員 庄司二三男君
12 番議員 岩村 勝弘君	14 番議員 小宮 利夫君
16 番議員 鈴木 勝美君	17 番議員 鈴木 忠夫君
26 番議員 辻田 実君	27 番議員 横溝 功君

以上10名を指名いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、決定いたしました。

ただいま選任されました予算審査特別委員会委員の方々は、後ほどこの議場において正副委員長の互選を行いますので、御了承願います。

延 会 午後0時03分

◎議長（福原 勤君） お諮りいたします。

本日の会議はこれにて延会いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

んか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎議長(福原 勤君) 御異議なしと認めます。よって、本日はこれにて延会することに決しました。

なお、明15日から22日まで委員会審査のため休会、次会は3月23日午前10時開会といたします。その議事は、議案第2号乃至議案第21号及び議案第23号にかかわる各委員会での審査の経過及び結果の報告、討論、採決並びに追加議案の審議といたします。

この際申し上げます。各議案等に対する討論通告の締め切りは3月23日午前9時でありますので、申し添えます。

◎本日の会議に付した事件

1 議案第2号乃至議案第9号